人間社会デザインコース、ヨーロッパ女性史

ヨーロッパ中世に生きる女性

―Women in medieval Europe―

社会科教育・森　貴子

1. 講義の概要

2011 年度前期木曜日三時限のヨーロッパ女性史は、三回生以上を対象に、上記タイトルで開講された。

(1) 講義の目的

本講義は、西欧中世（とくにイングランド）を対象として、女性がいかなる社会的役割を果たし、どのように位置づけられていたのか、その実像を理解することを目的とした。背景には、最近の研究関心の広がりの中で、社会を構成する重要な要素として、女性を位置づけ直す試みが進んでいるという、歴史学上の事情がある。また、男女の関係を問い直すという現代的要請に応えるためにも、異なった時代・場所・文化における女性の生き方に触れることは、自らを取り巻く環境の自覚的把握を促す点で有効と考えられる。

具体的な到達目標としては、①現代社会における女性の位置づけに関心を持ち、比較の視点から、中世イングランドの女性について思考することができる、②女性の地位・役割が時代と場所によって異なること（構築性）を理解し、説明することができる、③女性というテーマを通して、ヨーロッパ中世社会の特質に触れ、西洋史の知識を深める、以上を設定した。

またディプロマ・ポリシーとの関連では、本講義を通じて、共生社会を築くために得意とする分野の専門的知識を習得すること（知識・理解）、自分の生き方を社会のあり方と結びつけてデザイン（考案・計画）できること（思考・判断）、以上の二点を掲げている。

(2) 講義の概要

授業は、基本的に、講義形式で行われた。考古資料、絵画資料、さまざまな類型の文字資料を用いて、各々の時代に社会の各領域で女性が果たしてきた役割を検討した。具体的には、キリスト教導入期から普及期における女性の地位の変化、身分に応じた活動（貴族、都市民、農民による経済的・社会的活動。例えば、労働、結婚、出産のあり方など）とその社会的評価（活動の範囲や、法・医療・宗教における位置づけ等）を、歴史資料を具体的に提示しながら、詳細に追跡した。

また、毎回の講義の導入部分で、ジェンダーやフェミニズムの観点から、いま現在議論の的になっている論点や文献を紹介することで、現在に生きるわれわれと過去とを意識的に比較・関連させる態度を促すよう試みた。

２．授業評価の内容と結果

授業評価は、学生に無記名アンケートを実施し、その結果にコメントを付すことで行うこととした。受講登録者９人中、アンケート回答者は８名（人間社会デザインコース三回生７名／社会科教育三回生１名）であった。

◎ 問 1ー９は、次の五段階で評価してもらい、下表のような結果を得た。

＜評価基準＞

５：強くそう思う（非常に良い）
４：ややそう思う（良い）
３：どちらとも言えない（普通）
２：あまりそう思わない（あまり良くない）
１：全くそう思わない（良くない）

＜問い＞

問１　この授業への出席状況は
問２　授業のテーマ・目的は、明確でしたか
問３　担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか
問４　担当教員は重要な点を適切に説明しましたか
問５　板書は見やすかったですか
問６　配付資料は有用でしたか
問７　授業に対する教員の熱意・工夫が感じられましたか
問８　授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか
問９　授業によって考え方が培われたり、得

るところがありましたか

評価	5	4	3	2	1
問１	4	1	2	1	0
問２	3	5	0	0	0
問３	5	3	0	0	0
問４	4	4	0	0	0
問５	4	2	2	0	0
問６	5	2	1	0	0
問７	7	1	0	0	0
問８	3	3	1	1	0
問９	4	4	0	0	0

＊問１ー９に対するコメント

問６：カラーコピーで詳細な部分まで見やすかった

問７:配布資料の絵や写真など／毎回授業（女性・性）に関する本の紹介があった

◎ 問 10、11 は記述式で解答を求めた。

問 10　この授業で良かったと思う点、印象に残った点を挙げてください。

授業時に様々な文献を紹介してもらえるため、自分が興味を持っている分野を知ることができた／関係資料が数多く配布され、視覚的な学びがあったし､各資料の説明があったため、知識が深まり、印象に残りやすかった／授業始めの参考文献の紹介が役立った。今後読んでみたいと思った本があった／資料がカラーで美しかったので、その時代背景をより感じることができた／授業前や授業中での女性に関する結婚観や出産などについてのフリートークが印象的だった。いろいろな考え方や知識を身につけることができた／身分によって女性の扱われ方とか、働き方が違うということを知った／その日の授業テーマにそった日本の現状が聞けたこと

問 11　この授業で改善すべき点を自由に挙げてください。

一つ一つ項目毎の学習は分かりやすいが、時代や時代背景が混乱することがあった／紹介された文献に目を通したくても、授業そのものが始まってしまうため、難しかった／少し駆け足で授業をまとめることがあったので、そこを改善してもらいたい。大切なことを聞き逃してしまうこともあるから

３．コメント
–授業の達成度・今後の課題–

受講生の人数が限られていたこともあり、授業者にとっても、学生の名前と顔が一致する、進めやすい授業であった。また、講義形式の場合に陥りやすい、一方通行的な知識の伝達にならないよう、質問を投げかけたりして受講生とのコミュニケーションをとるように努めた。

アンケート結果から分かるように、授業導入時に紹介した、ジェンダーに関する今日的トピックや、写真や絵画を多く用いた配布資料については、授業者の工夫が高く評価されており、この点については今後も継続・発展させていきたいと考えている。また、西欧中世史に関する受講生の知識（不足）に配慮して、取り扱う内容を限定したうえで、受講生に今日との比較という観点から積極的に発言を求めたが、この手法もある程度評価されていると感じた（←問 10 での感想「フリートークが印象的だった」)。到達目標の一つである、女性の地位・評価の被構築性についても、関心を寄せはじめていることが分かった（←問 10 での感想「身分によって女性の扱われ方が違う」)。

他方で、ディスカッションに時間を取りすぎて、授業内容を急いでまとめざるを得ない場合があり、この点では反省・改善が必要である（←問 11 での意見「大切なことを聞き逃してしまう」)。また、本授業を通じて、どういった考え方を培い、なにを得たかという、より本質的な質問（問９）に対しては、コメントが寄せられていないため､判断が難しい。ただし、この授業評価アンケートとは別の機会（成績評価のための試験問題＝「現代社会の女性を巡る問題について、西欧中世の女性と比較しながら、論じなさい」に対する解答）では、受講生がこの分野についての理解を深めたことが確認できた。したがって、授業の進め方や資料など、講義をめぐる技術に偏って提出される学生の意見を、もっと内容に関連したものに発展させていくために、授業評価アンケート自体（項目や実施方法自体）を工夫してゆく必要がある。